

式辞

本日ここに、府中町原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式を挙行するにあたり、原子爆弾の投下により犠牲となりました多くの御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げるとともに、今なお被爆の後遺症に苦しまれている方々に、心からお見舞いを申し上げます。

また、本日は、町内小中学校の児童、生徒の代表の皆さん、町議会議員、町内会役員の皆様をはじめ、多数の町民の方々にご参列をいただき、深く感謝申し上げます。

８１年前の今日、８月６日午前８時１５分、一発の原子爆弾が広島に投下されました。一瞬のうちに街は壊滅し、多くの尊い生命が奪われ、人々の心に今なお癒えることのない傷を残しました。

今年行われたＮＰＴ核不拡散条約再検討会議も合意に至らず決裂し、核兵器の廃絶、そして世界平和の実現の道は、依然険しい状況にあります。

今年５月には広島県原爆被爆者団体協議会の理事長に新たに原田浩氏が就任され、就任のあいさつで「次の世代にバトンタッチしていかなければならない」と発言されていましたが、被爆者や戦争を経験された方々の想いを直接お伺いすることが難しくなるなかで、本町にあって、次世代への継承を目的に各種の平和推進事業に取り組んでいます。

昨年の被爆８０年事業に続き、本年７月５日には記録映画「ヒロ子の日記～原爆ドーム保存秘話～」の上映会及び「府中町ゆかりの原爆資料展」、８月１日に南公民館で町内小学生による「原爆詩の朗読会」と家族伝承者による講話を開催し、児童、生徒を含む多くの方々の参加をいただいています。

また、８月８日には府中公民館で、「平和を広めるおはなし会」と題して紙芝居や絵本の朗読、そして安芸府中高校などの高校生が考案した平和メッセージを伝える折鶴「魅和鶴（みわづる）」のワークショップなど様々な平和推進事業を継続的に実施し多くの方に平和について考えていただく機会を設けています。

原爆投下から８０年以上が経過し、被爆者や戦争経験者が少なくなる

現在、私たちは、すべての被爆者の方々や将来の世代に対する責務として、「核兵器廃絶と恒久平和」の実現に向けて、被爆・戦争体験を次世代に伝えとともに、平和の尊さを発信する取組みに、より一層力を尽くさなければなりません。

本日は児童、生徒の皆さんにもご参列いただき、このあと「平和へのメッセージ」を発表していただきますが、原爆によって広島市とともに世界で最初に凄惨な被害を被った府中町の地で育つ皆さん方が、我々の平和への願いをしっかりと受け継ぎ、今後とも世界に向けて力強く発信してくださることを期待しております。

結びに、原爆、戦争により亡くなられたすべての御霊に、改めて、深く哀悼の意を表するとともに、被爆者並びにご遺族の皆様、式典へのご協力をいただいた関係団体の皆様、そして「平和」への思いを未来へ、受け継いでいただく小中学生の皆様方の、ご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。式辞といたします。

令和8年8月6日

府中町長 寺尾 光司